



## 【心の動機を探っておられる神様】

本日の聖書本文:第一歴代誌21:1-8節/暗唱:箴言16章18節

説教者:牧師 鄭南哲  
(Rev.Jung nam-chul)

### <1.第一歴代誌はどんな聖書ですか?>

今まで創世記から始め第二列王記までメッセージをさせていただきました。今日は旧約聖書の講解13番目の時間として歴代誌について申し上げたいと思います。歴代誌も列王記のようにもともとは一冊でしたが、のちに一・二に分かれました。歴代誌のヘブル語の名前は**ディブレハヤミム**、つまり**"その時代の出来事"**という意味です。ヘブル語で書かれた旧約聖書をギリシャ語で訳されたのを70人訳と言いますが、この翻訳版の聖書の名前は**"書き漏らした出来事"(omitted things)**でした。歴代誌という名称(めいしょう)の由来(ゆらい)はラテン語の聖書からです。まとめてみると、**歴代誌はサムエル記第一、第二と列王記第一、第二の内容を補充(ほじゅう)する意味**があります。

歴代誌の約40%はサムエル書と列王記の内容と同じ内容が繰り返されています。しかし、同じ出来事についての単純な繰り返しではなく、**観点が違う内容**が歴代誌には記されています。例え、新約聖書でイエス様の生涯と教えを記録した四つの福音書でもいろんな同じ出来事が記録されていますが、それぞれほかの弟子たちの観点で記録されているのと同じです。歴代誌ではサムエル時代から北イスラエルと南ユダの滅亡までの歴史を記録したサムエル記と列王記と同じ出来事を扱いながらも違う観点で記録されています。

まず、サムエル記と列王記ではイスラエルとユダの政治的歴史が記録されたなら、**歴代誌では集中してユダとダビデ王国の歴史をより信仰的側面で記録**しています。つまり、サムエル記や列王記では王たちの業績や戦争などにたよっていますが、**歴代誌では聖殿と聖殿の礼拝が中心的に記録**されています。

次は、サムエル記と列王記ではユダとイスラエルの両国の歴史が全部扱われていますが、**歴代誌ではダビデの統治と南ユダ王国の歴史が中心的に記録**されていて、北イスラエルの歴史はあまり記録されていないのがその違いだと言えます。

そして、**歴代誌ではダビデ王に対する内容を中心に、南ユダの歴史の中でも特にヨシャパテ、ヨアシュ、ヒゼキヤ、ヨシヤ王など良い王たちについて多く記録**されています。これは**歴代誌が単なるイスラエルの歴史的記録ではなく神様の愛と恵みを信じて信仰に戻る事を訴える説教のような御言葉**ということです。このような理解をもとに今日の本文に入りたいと思います。

### <2.ダビデ王の二つの罪>

第一歴代誌はダビデに対する記録がその中心だと申し上げましたが、11章からダビデの話が出ます。聖書はダビデのすばらしい業績も記録していますが、**彼が犯した罪についても具体的に記録**しています。

一つ目のダビデの犯罪はみなさんもよくご存知のように、**第二サムエル11章1節から12章25節**によると、イスラエルの勇士たちがアモンという部族の戦争のために出陣している間、**ダビデ王はエルサレムにとどまっていた**。ある夕暮れの時、王宮(おうきゅう)の屋上を歩いていると体を洗っている一人の美しい女、つまり自分の部下であるウリヤの妻バテ・シェバを見てしまいます。その後ダビデ王は自分の権力を利用し、彼女をすぐ王宮に呼んで性的な姦淫の罪を犯してします。後でダビデ王はバテ・シェバが自分の子を妊娠してしまった事を隠すために戦争場に出ている部下ウリヤを呼んで自分の妻と寝かせ、妊娠されている子がウリヤの子のようにだまそうと企(くわだ)てましたが、**忠実な部下だったウリヤは同僚と部下たちが今戦争場で戦っているのに自分だけがのんびりと家で寝ることはできない**と言って結局家に帰らず、ふたたび戦争場に戻ってしまいます。結局ダビデはウリヤを戦争の最前線に行かせて死ぬようにさせ、その後、彼の妻バテ・シェバは自分の妻として迎え入れました。いったいどうして、**どうやって神の人だったダビデ王がこんな卑怯で、卑劣な罪を犯すようになったのでしょうか?**

私たちも心と生活に余裕がある時気をつけなければなりません。お金もあり、時間もあり、力もある時、何でもできそうな状況になっ手いる時、一人でのんびりしている時に気をつけなければなりません。その時こそ人間は高ぶりになりやすく、本能的なことを求めてしまう危険があるからです。ですから、余裕がある時こそ、**霊的に目を覚まさなければなりません**。結局ダビデは姦淫と殺人の罪を犯し、預言者ナタンの戒めを聞いて自分のベットがすべて涙でぬれるほど断食しながら、心からの悔い改めをし、許されます。その時の悔い改めの祈りが詩篇51編と32編の内容でもあります。

二つ目のダビデの大きい罪は今日の本文に記録された内容です。本文の第一歴代誌21章に記録された人口調査でした。しかし、この人口調査がなぜ神様の前で罪なのでしょう。

みなさんはどう思われますか?7節によると、“この命令で、王は神のみこころにそこなった。神はイスラエルを打たれた”と書かれています。なぜでしょう。

ダビデが王位についた後、ある日、忠実な部下であったヨアブ将軍に人口調査をするように命じました。この人口調査をしようとする時期は第一歴代誌18章-20章までを参考にするといろいろな国と戦って、勝ち、強力な王権と領土が拡大されていた時期であったことが分かります。

18章6節によると、“主は、ダビデの行く先々(さきざき)で、彼に勝利を与えられた”の通りでした。

強力な帝国を立てたダビデは統治者としての自信に満ちていました。すべてが順境で平安な時を送っている時でした。人はこんな時、もっと神に頼れるかと思うとそうではなく、逆に高慢になりやすくなるのではありませんか。ダビデの場合がそうでした。ダビデは高慢になり、自分の勢力を表したくなりました。自分の下のある軍事力を自慢したくなりました。そうわけで人口調査を指示したのです。神様は勝利を与えましたが、彼はもう神様を頼らなくなっていました。

彼の忠実な部下であったヨアブ将軍は人口調査の不当性(ふとうせい)を指摘しました(3節)。神様の前で正しくなかったからです。一番近くにいる人が一番よく分かるようにヨアブ将軍は人口調査を指示したダビデの心の意図をよく知っていました。それでヨアブは、100人を千人のように用いる方が神様なのに、なぜ人口調査をしようとするのか、なぜ神様の前で罪を犯そうとするのかと忠言(ちゅうげん)をしたのです。

しかし、本文の4節を見ると、ダビデは人口調査を急がせます。それでヨアブはイスラエルの地をあまねく行き巡り、イスラエルの北のダンから南ユダのベエル・シェバまで9ヶ月20日間の時間をかけて人口調査をしました。その結果戦いに出れる人はイスラエルに110万人、ユダ地域に47万人、合計157万人という大軍を報告されたのです。

ところが、7節を見ると、神様はそんなダビデの行為がみこころをそこなったと書かれています。

信仰の家族のみなさん!人口調査自体は何の問題はありません。ある面人口調査は国の経営に必要なことかもしれません。人口が分れば食料の計画も立てれるし、国家防衛(こっかぼうえい)計画も立てることができます。もしかすると人口調査時代はとっても合理的で、国家管理のために必要かも知れません。そういうわけで、こんにちはずべての国が定期的に人口調査をしているのではありませんか。なぜこれが神様の目では悪であり、神のみこころをそこなうことになってしまったのでしょうか。

### <3. 問題は心の動機です。>

問題は心の動機です。人は結果だけを見て、結果だけを重要視しやすいですが、神様は我々の隠れた心の動機さえもすべて見られます。よく結果だけを見やすいですが、**実際は動機がもっと大切です**。動機が悪ければ、その結果も悪いです。結果がどんなに良くても動機が正しくなければ、良いとも言えません。

キリスト教の倫理の面から考えると、動機も良く、過程も良く、方法も良く、結果も良かった時こそ、神の前で正しい事だと言えます。人々は現れた結果だけで評価しようとしています。結果が良ければすべてが良いと言うかも知れませんが、我々が信じている神様は我々と違います。神様は結果だけ見ておられません。

【しかし主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。

人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」】(第一サムエル記16:7)

(Man looks at the outward appearance, but the LORD looks at the heart.)

我々が信じている創造主の神様は人の隠れている動機を見ておられるお方です。ところが、心の動機というのは隠れているので、外になかなかよく現れません。なので、自分以外に他の人々はよく知りません。

しかし、神様は今回ダビデの人口調査を命じた彼の心の隠れた動機を見ておられ、すでに知っておられました。自分をどれほど今自分が手にいれてあるものを通して自分の力、自分の能力、自分がどれほど多く持っているものなのか自己誇示(こじ)をしようとする神の前で高慢な動機を神は読んでおられました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

神は今皆さんがどんな心の状態でこの礼拝に集っているかすべて読んでおられます。何かをしようとする時に、みなさんの隠れている隠密(おんみつ)な心を動機さえすべてを見ておられ、知っておられるお方である事を忘れないでください。

罪の本姓を持っている人間は時には人だけじゃなく、神さえもだます事ができるかのように振る舞いをする時がありますが、人はできても神には決してできない事を覚えていきましょう。この真実を覚えていく時こそ、人はいつも言動や自分の身を慎みつつ、謙遜に謙って、神を恐れる信仰を保つ事ができるのではないのでしょうか。

ダビデ王には人口調査を命じたまた違う動機もありました。それは、これからの戦争に備えて軍人(ぐんじん)の数字を把握しようとするためでもありました。しかし、この動機も神様の前では正しくありませんでした。なぜなら、今までとは違ってダビデ王は神様に頼ろうとせずに、軍人の人数をもっと信頼し、頼ろうとしていたからです。結局、今まで目には見えませんが、生きておられ、共におられる神のみを信じ、神の強い御手により打ち勝って来たダビデでしたが、その信仰が弱くなり、心が変わって、目に見える軍事力、人の力にもっと頼っていたのがダビデの心の状態でした。サタンはそんなダビデに誘い込んで神の御心と逆らった人口調査という形を通して、本心は軍人の人数を把握しておきたかったわけです。

“ここにサタンがイスラエルに逆らって立ち、ダビデを誘い込んで、イスラエルの人口を数えさせた。”(本文1節)

#### <4. 本日の御言葉の教訓の整理>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

人はだれかに見せれる結果、誇れる結果を残すと、心が高慢になりやすくなります。表では積極的にそう表さなくても、心ではまるで自分の力と能力ですべてできたかのように考え込んでしまいやすいです。

資源6章16節以下では神様が忌み嫌われる7つの罪が言及(げんきゅう)されていますが、その一番目が人の高ぶり、高慢です。高慢な人には二つの特徴があります。

一つ目は全能なる神を恐れないことです。自分の言葉、行い、心の隠されている隠密な動機さえも全能なる創造主の神は見ておられる、そして知っておられるという意識もせずに、注意を払わなければ、その時こそ神様を恐れてないサインかも知れません。すべての事について自分の心の状態や動機さえ見ておられる神様を覚える時に、我々はより謙遜になり、いつも神の前で自分の心をさぐることができると思えます。

二つ目は全能の神に頼らないことです。高ぶりの人間は目に見えない神に頼ろうとするより、人間の力と人の数字をもっと大事に考えます。神に心から頼る人は神に祈る時間より会議の時間がもっと長くなることに気がつけます。神にしっかり頼っていない時に、我々はまず神の御心を真剣に探ろうとするより、いつも周りの人の心や反応、声に敏感になり、それによってごろごろ変わり心が左右されます。

士師記7章に書かれているギデオンの話を我々はよく聞いて知っているでしょう。神様は13万5千人のミデアン人軍隊と戦うために集まって来たイスラエルの2万2千を返らせます。そして残っていたイスラエルの兵士1万人も多いということで、神様は300人まで減らし、みんな返らせます。この事に士師記7章2節にはこう書かれています。

「そのとき、主はギデオンに仰せられた。「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った。』と言って、わたしに向かって誇るといけないから。」

神様は少数であっても、神のみを徹底的に信じ頼っていた絶対信仰の勇士300人だけで13万5千人のミデアン人軍隊と戦って勝利するのに十分な人数でした。そして、神様はその300人を用いて大勝利を収めることができたのです。箴言16章18節に、「高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。」書かれているのにも、今日ダビデ王がこの御言葉通りになってしまったケースではないでしょうか。

「みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」(ペテロ人への手紙第一5:5-6)

今日の御言葉を終わらせたいと思います。愛するみなさんはいかがですか。

先週も、今日も変わらず今も生きておられる全能なる神を絶対に信じていますか。

今も謙遜に謙ってその神様に心から頼って生活していますか。

旧約聖書の御言葉は神によって造られた被造物である我々にいつも神のみを信じ、謙遜に頼りつけなさいと命じて下さっています。

時が悪く、大変な時だけ主に頼るのではなく、平穏な時、物事がうまく行ってる時、忙しい時、成功している時こそより全能なる神の御手の下にへりくだるCPCの全家族のみなさんとなりますように祈ります。

それによってまた始まる今週からさらなる神の祝福と勝利を実際に味わっていくクリスチャンプレイズ全兄弟姉妹となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！！